

1.明治6～7年の簾舞地区のようす

北海道150年名付け親「松浦武四郎」の名が取出され、時の人となっておりますが、安政年間に彼はニセイオマフナイ(簾舞)付近を喘ぎ喘ぎ、這うようにして進んだ・・・と。のちに開拓使お抱え絵師の船越長善が「札幌西部図(明治6)」の絵地図にミソマップ・バンノサワ・タキノサワの名前が書いてあり、現在の東御料川・簾舞川や通行屋の△印と二星岱も窺えます。翌年の「札幌各村図」には休泊所の文字があり、図面を拡大しますと、本願寺街道が東御料川伝いに下り、Uの字を描くように二星岱の南側を廻り、簾舞川へと降りています。へび坂から中学校にかけ



「札幌西部図・部分」 船越長善 (明治6)

て、湿地や沼地を避けながら、「人力」で道路を開削した苦労が手に取るように解ります。長善は、「ミソマップ川上の滝」や「定山溪温泉所」「アシリベツ(厚別)小休所」、「ワツ(輪厚)休泊所」の絵がありますが簾舞通行屋がありません、が白黒と色彩の美しさ・繊細さに驚きです。

2.「定山溪鉄道」…久保ヒデキ著 定価2,800円+(税)

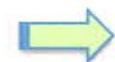
今年1月に北海道新聞から、久保ヒデキ著「定山溪鉄道」の本が発行されました。327ページを1200点の写真に掲載、そのうち231点のモノクロを自身の持ち得た写真編集の技量と特技を生かし、カラー化しております。内容は、定山溪沿線の各駅と地域を映し出して分かり易く解説しております。彼は、定鉄について興味を持ったのは、奇しくも中

学2年の夏休みに友人とサイクリングで、定山溪を目指している時に簾舞川の川下の鉄橋を見つけたのが、そもそもの始まりとのことで・・・郷土資料館にも何回も来訪され皆さん



から寄贈された資料・写真等をカメラに納め、3年間をかけて立派な鉄道記録を作りました。定鉄を利用した方には、「必読書」です興味ある方はどうぞ・・・。

通行屋
&資料館
ここに注目
昭和12年と
36年の夏



建物はmini開拓村
展示品は昔を語る
物言わぬ学芸員



札幌開発建設部の「簾舞道路改良事務所」が手がけた当時、東洋一といわれたディビダーク工法の「盤の沢橋」長さ 140メートル(中央桁間80m) 昭和36年完成

↑豊かな自然と優しい医療

この春から、管理棟・病棟・ボイラーそして看護学校等々解体工事が行われています。

優しく厳しい先生と看護婦さん
今いずこ・・・

←豊滝・「盤の沢橋」と

初代「二宮金次郎」像 →
(右)簾舞小学校の昭和12年校舎完成時の二宮金次郎の銅像です。体形と顔がフクヨカで、堂々としてます。残念ながら太平洋戦争の時に鉄製品の供出でなくなりました。



地域の歴史シリーズ

No.69 2013.4 発行 旧簾舞通行屋保存会

気候温暖にして空気清浄な簾舞(白川)に昭和18年10月傷痍軍人北海道第二療養所が開設した(業務開始は17年11月)病床数800で傷痍軍人と軍属の医療保護を目的として創設されました。大戦が終わり厚生省管轄になり名称も「国立北海道第二療養所」となり、傷痍ばかりでなく戦災引き揚げ者や国民の結核医療を担うようになりました。この時報員の住宅事情の解消として病棟1棟を官舎に当て620床となりました。昭和40年頃から木造から順次コンクリート病棟に変わり、完成をみたのは55年の年でした。この間49年に病院名称も「国立療養所札幌南病院」となり病床460の総合病院として地域医療に貢献しましたが、病院機構の統合が進み「簾舞の結核療養所」も平成22年2月に閉院となりました

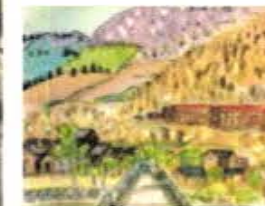
国立北海道第二療養所

傷痍軍人北海道第二療養所
国立療養所札幌南病院

資料 簾舞郷土資料館



1. 国立北海道第二療養所 (昭和37)



国・療 sketches (昭和38)



2. 国立療養所札幌南病院 (平成5)



3. 御料橋からの病院棟 (昭和35)



4. 官舎群と定鉄電車 (昭和44)



5. 官舎の子どもたち-ラジオ体操 (昭和33)